

光明寺だより

第85号

浄土真宗本願寺派

光明寺

〒793-0030 西条市大町550

TEL 0897-53-4583



心に残る詩

かけがえのない

東京都 石川善康 (80)



生まれかわったら
 こんどこそ
 真^{まっとう}当^{とう}な一生を
 生きてみたいもんだ
 なんて

違^{ちが}うんです
 今、生^いきてい^る
 この一^い生^{せいの}が
 こんどこそと
 生^いまれかわ^{って}
 生^いきている
 かけがえのない
 新^{あたら}しい一^い生^{せいの}なんです

彼岸会法座

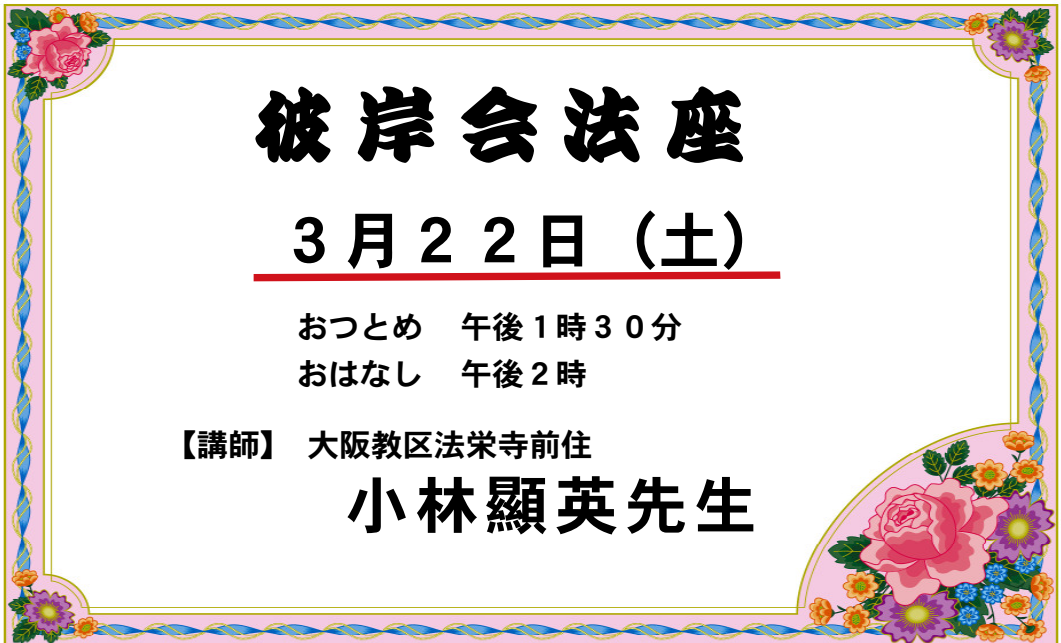
3月22日(土)

おつとめ 午後1時30分

おはなし 午後2時

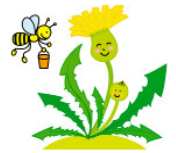
【講師】 大阪教区法栄寺前住

小林顯英先生



一口法話

人生の羅針盤



江戸時代の頃のお話であります。

「剣の道」を何とか早く極めたいと考えていたある剣客が、その人生の師である、お寺の老僧に尋ねました。

剣客「ご老僧、剣の道というのはどれほど修行すれば極められるものでしょうか？」

老僧「そりゃ一口では言えぬ。要は心がけ次第じゃ。掃除をするのもそうじゃろう。遊び半分でやるのと一所懸命やるのでは当然時間が違うじゃろう。ところで、お前さんは一体どんな心がけで修業するつもりじゃ？」

剣客「ハイ、とにかく人一倍頑張っって修業をしたいと思えます。和尚、人一倍頑張れば何年位かかりましようか？」

老僧「そうよのう。人一倍か、それなら多分十年はかかるだろうのう」

もっと短い期間に剣の極意を極められるだろうと考えていた剣客にとって老僧の答えは予想外でした。思ったより期間が長いのです。

そこで重ねて老僧に尋ねます。

剣客「それならご老僧、寝食を忘れて修行すればどうでしょうか？」

老僧「ほほう、益々いい心がけじゃ。そうよのう、寝食を忘れて求めたら、かれこれ二十年はかかるのう」

当然、修業の期間が短くなるだろうと期待していた剣客にとって、その答は納得できるものではありません。剣客は、さらに老僧に尋ねたのです。

剣客「ならばご老僧、命を賭けて求めたらどうでしょうか？」

老僧「一生かかるわい！」

.....

以上のようなお話であります。

この逸話は「道」というものの性格を見事に言い表した、大変味わい深いお話だと思えます。

「剣の道」に限らず「道」というものは、真剣に求めれば求めるほど、その心がけに比例して益々深くなってくるのだということがこのお話のポイントであります。

ところで、私たちは「剣の道」ではありませんが、誰もが歩んでいる道があり

ます。

それは、申すまでもなく「人生の道」であります。

この道は一度きりの道でありしかも、いつ終わってもおかしくない道でもあります。それだけに、大変かけがえのない、大切な道であります。

この「人生の道」も、先程の「剣の道」と同じように、その人の心がけ次第で、浅くも深くもなります。

安易にこの人生を渡ろうとする者には、その道の深さに気付かないかもしれ

ません。しかし、真剣に歩もうとする者には、この人生という道はまことに深いものだということが気付かれます。

親鸞聖人は、この人生を「難度海」とたとえられました。

すなわち、自分の力だけでは、到底渡り切ることの出来ない煩惱の波の荒れ狂う海のようなのだとおっしゃっているのです。

このお言葉の裏には、それまでどれくらい力を尽くしたかわからないということとを物語っていることに気づかせて頂かねばなりません。

ところが、私たちは、ともすれば簡単

にこの人生を渡りきることが出来るように考えがちです。

時折、「人生とはこんなもんじゃ」と、あたかも人生道を極めたようなことを言う人を見かけることがあります。

しかし、なかなかそうはいかないのが私たちの現実ではないでしょうか。

時に思いがけないことや思い通りにならないことに出くわすと「何で私だけがこんな苦労をしないといけないのだろ」と愚痴をこぼすこともあれば、その時の状況に流されて「してはならないことをしたり」「言ってはならないことを言ったり」「思ってはいけないことを思ったり」することもよくあります。

これでは到底、人生を渡っているとは言えません。それはただただ人生に流されているだけです。

「世渡り」ではなく「世流れ」です。

こうして、世の荒波に押し流されるたびに、右往左往しながら、渡るべき人生の目的地を見失ってしまっているのが私たちです。

観無量壽經に「汝はこれ凡夫なり。心想羸劣にして未だ天眼を得ざれば遠く観ること能わず」と説かれてあるように、私たちは、まことに意志弱く、先を見通

す知恵のない凡夫です。

そんな私たちが、この人生という果てしない海を渡り切るにはどうしてもその目的地を正しく示してくれる「羅針盤」というものが必要になってくるのです。

親鸞聖人は「その羅針盤こそお念仏の教えであり、その羅針盤を積んだ船こそが南無阿彌陀仏の船なのです」と九十年のご生涯を通して、私たちにお示し下さったのです。

そのことをご和讃に

生死の苦海ほとりなし
久しく沈めるわれらをば
弥陀弘誓の船のみぞ
乗せてかならず渡しける

と詠われました。

聖人は、この「難度海」と呼ばれる人生を、お念仏のみ教えという羅針盤に導かれ、「我にまかせよ、必ず救う」という南無阿彌陀仏の船に乗せられて、見事に渡り切っていかれました。

私たちも、親鸞聖人の仰せに従いながら、苦悩の海を渡っていききたいものだと思います。

そのための「羅針盤」と「船」は、す



でに私のために用意されているのです。

(注) 今回の一口法話は「テレフォン法話 第1集」に掲載されたものです。





新春法座つとまる



1月9日午後4時より藤田徹文先生（備後教区・光徳寺前住）をお迎えして、恒例の新春法座が開催されました。

今年は、歎異抄第2章に出てくる往生極楽の道について、「往生とはどういうことか？、極楽とはどういうことか？」というお話をしていただきました。

当日は厳しい寒さにもかかわらず、30名の参加者がありました。ご参拝頂いた方々に改めてお礼を申し上げます。ようこそお参りいただきました。

【講演主旨】

「往生極楽」とは極楽に往生するという意味ですが親鸞聖人は「極楽」という言い方はなさらずに、「無量光明土^{むりょうこうみやうど}」と仰っています。「限りのない光の世界」ということです。

光とは「親の七光」という言葉があるように、私を支え、導き、護って下さるものです。無量光明土とはそのようなハタラクが数限りなくある世界ということなのです。

お念仏の教えに出遭い、信心をいただく（目覚める）と、この世界が無量光明土であることに目覚めるのです。つまり私たちはすでに、無量光明土に包まれ生かされていることに気づかされるのです。この世界はあらゆるものが一つ如しに繋がっており、それが大きなハタラクとなってあらゆるいのちを生かし続けているのです。

その事実に目覚めると、当然のことながら私たちの心に無上の喜び（「歡喜^{かんぎ}」）が生まれてきます。ところが一方では、生かされていながらそのこと喜ぼうとしない、そんな愚かな我が身にも目覚めるのです。そんな我が身に気づかされる時、恥じる心（「慚愧^{ざんき}」）が私たちに生まれてきます。

この「歡喜と慚愧」の思いをもって人生を歩む、それが念仏者の人生です。

また、往生極楽の「往生」とは生きて往くという意味と生まれて往くという意味があります。信心をいただくことによって、私たちは正定聚（間違いなく仏さまになる仲間＝菩薩^{ぼさつ}）として、この人生を生きて往きます（往生）。そうして身命終（死）と同時に仏となって浄土に生まれて往くのです（往生）。

.....

おねはん
涅槃会のご案内

3月15日（土）

1回目・・・ 9時～10時
 2回目・・・ 11時～12時
 3回目・・・ 13時～14時





「愛媛県仏教婦人研修大会」盛大に行わる！



好天に恵まれた2月25日（火）、「愛媛県仏教婦人研修大会」が伯方島にある開発総合センターで開催されました。

今年は「お念仏の心 金子みすゞのころ」と題して、「ちひろ（歌手・作曲家）コンサート」が開かれました。

童謡詩人・金子みすゞさんの詩「私と小鳥と鈴と」・「星とたんぽぽ」・「大漁」等々に曲をつけ、作者のお念仏の心や、ちひろさんご自身の味わいなどをやさしく語りながら、10曲あまり歌っていただきました。音楽と朗読という講演は殊の外、心に染み入り感動的でした。

当日は愛媛県下より500名の仏教婦人の皆さんが参加されました。光明寺からは15名参加いたしました。来年度は宇和島で開催される予定です。



人生そのものの問い

日々の暮らしのなかで、人間関係に疲れた時、自分や家族が大きな病気になった時、身近な方が亡くなった時、「人生そのものの問い」が起る。「いったい何のために生きているのか」「死んだらどうなるのか」。

この問いには、人間の知識は答えを示せず、積み上げてきた経験も役には立たない。

目の前に人生の深い闇が口を開け、不安のなかでたじろぐ時、阿弥陀如来の願いが聞こえてくる。

親鸞聖人は仰せになる

弥陀の誓願は無明長夜のおおきなるとしびなり

「必ずあなたを救いとる」という如来の本願は、煩悩の間に惑う人生の大いなる灯火となる。この灯火をたよりにする時、「何のために生きているのか」「死んだらどうなるのか」。この問いに確かな答えが与えられる

『拝読 浄土真宗のみ教え』より

趣味の広場



俳句を楽しむ (六十四)

森本隆を

毎年三月に入ると吹く風や川の水、山野のたずまいに春の訪れを実感します。長い冬の終りが近づくとともに農事が忙しくなる季節ですが、この時期、お寺もかなり賑わう日が増えます。今年の予定で言えば、光明寺では三月十五日(土)に「涅槃会」法要が終日営まれます。陰暦二月十五日を釈迦入寂の日として、各寺院では涅槃像(図)を掲げ法会を営みますが、丁度この日は二月の望の日でもあり古来春の農事のとりかかりの祭日のような日でもありません。

涅槃会の水に穴あく鯉の口 三橋 敏雄
涅槃図の裏よりとどく母の声 原 裕
又、毎年この頃よく雪が降り、そのシーズン
の雪の降りじまいだというので「涅槃雪」とい
う季語があり「雪の果」ともいいます。またこ
の頃吹く西風も「涅槃西風」という季語になっ
ています。
涅槃西風麦の草とるひとり言 村村 蒼石
舟べりに鱗の乾く涅槃西風 桂 信子
別れ雪寝酒を妻にわかちけり 田中 灯京
机買ふ算用雪の別れかな 小林 康治

どの句も心待ちにしていた春の訪れを感じ始めたころの気持ちとそれとなく詠み込んだ生活俳句ですね。

続いて三月二十二日(土)には光明寺に於て「彼岸会法座」が予定されています。「彼岸会」とは、春分を中日とする七日間の仏事供養だと「歳時記」では説明されています。彼岸は、煩惱の世を離れて涅槃の世界に到達することで、太陽が真西に沈む春分・秋分の日こそ衆生に弥陀のおられる所を示し、往生の本願をとげさせるのに最適だとして、この日に仏事を行うようになったとことです。

読経に障子を明るし彼岸寺 魚住 王蟬
少年が水こぼしゆく彼岸寺 六角 文夫
彼岸会のひと日仏陀の弟子となる 長谷部昭子

彼岸会の若草色の紙包み 岡本 眸
早春の一日、仏恩を謝し、自分を生かしてくれている全てのものに感謝し、西方浄土を想い、仏弟子として静かに過ごす心境をあらわした句です。

光明寺さんでは毎年、新春(一月)、春秋の彼岸(三月・九月)、報恩講(十二月)と四回、法座を開催してくれています。毎回、わが浄土真宗の布教に熱心で永年にわたって全国的に仏教のおしえを説いて回っておられる一流の講師を先生として迎え、大変わかり易く、報恩謝徳、おかげさまの日暮しの大切さを説いていただいております。詳しくは「光明寺だより」にその都度掲載してくれていますので、ご都合をあわせて是非一度ご聴聞に

こられることをおすすしめします。
一語得て一語忘るる報恩講 隆を
一昨年十二月の報恩講に参加させていただいた折の拙句です。十年ほど有難い講話を聴聞させていただき、余程に仏のみ教えに通じたかというと全然そうではなく、毎回、教えて頂いては忘れ、のくり返して、その辺りが凡人の哀しさだと悟り、機会を与えて頂く度に勉強しようとして割切ることになっています。無理せず、お聴聞と俳句を楽しむに晩年の日々をゆつくりと過ごすことにします。

合掌



位職書作品



【字句】

風波尽日依山轉
星漢通宵向水連

【意味】

風波は一日中、山にあたって方向を変え
天の川は夜を通して水に連なる如く水天一色である

BOOK 本

『漫画 親鸞さま』



出版社 本願寺出版
著者 岡橋徹栄 (作) 広中建次 (画)
定価 1050 円 (税込)

本書は月刊誌『大乘』に連載された人気漫画「しんらんさま」を単行本化したものです。ご自身のことを多く語らなかつた親鸞聖人でありますが、確かな史実と魅力ある作画によって、波乱に満ちた偉大な聖人のご一生が偲ばれる本です。

岡橋、広中両氏のコンビによる著書は『マンガ 仏事入門』・『漫画 歎異抄』・『お寺へ行く』などがありますが、どれもマンガならではの読み易さと分かり易さが好評を得ており、本書も現在好評につき品切れとなっております。2月下旬に重版の予定になっております。是非一読をおすすめします。



住職継職法要

5月21日(水)

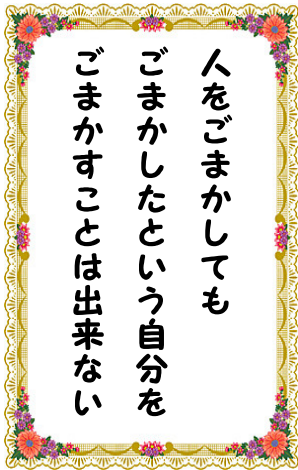
★法要 11時～12時
本堂にて

★祝賀会 13時～15時
会場：ベルフォーレ西条



言葉のプレゼント

人をごまかしても
ごまかしたという自分を
ごまかすことは出来ない



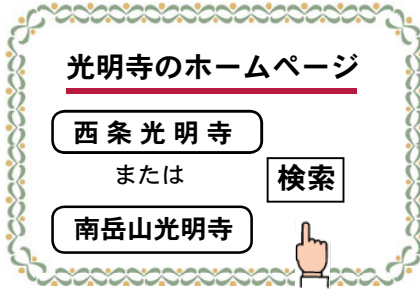
光明寺のホームページ

西条光明寺

または

検索

南岳山光明寺



「光明寺だより」をご家族の皆さんで
お読みください

次回発行予定・・・7月中旬



★1月9日(木)恒例の新春法座が開かれました。30名の参拝者がありました。ご講師は藤田徹文先生でした。
(※関連記事4ページ)

★副住職夫妻の第一子・心(愛称)ここチャンが生後5か月を過ぎました。無邪気な笑顔に文字通り心が和まされます。

★2月25日(火)愛媛県仏教婦人会が伯方町の開発センターで行われました。光明寺からは15名の参加がありました。
(※関連記事5ページ)

★5月21日(水)に行われる「住職継職法要」には、多数のご参拝をお待ちいたしております。あらためて4月上旬にご案内いたします。

(※関連記事8ページ)

